

テーマ：景気動向指数（2015年1月）

発表日：2015年3月6日（金）

～C I一致指数は2ヶ月連続で高い伸び～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ C I一致指数は2ヶ月連続で高い伸び

本日内閣府から公表された2015年1月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+2.4ポイントとなった。14年12月に前月差+1.4ポイントと比較的高い伸びになっていたが、1月は一段と上昇幅が加速した。C I一致指数は昨年8月を底として持ち直しが続いているが、ここに来て上昇ペースが速まっているように見える。

内訳では、投資財出荷指数や耐久消費財出荷指数、中小企業出荷指数、鉱工業生産財出荷指数など、生産・出荷関連指標のプラス寄与が大きかった。

一方、1月のC I先行指数は前月差▲0.2ポイントと低下に転じた。日経商品指数が0.83ポイントのマイナス寄与となっており、全体を押し下げた形である。ただ、原油価格の下落は日本経済にとってはプラス材料であり、日経商品指数の下落によってC I先行指数がマイナスに

なったことを問題視する必要はない。また、他の系列では、最終需要財在庫率指数や鉱工業生産財在庫率指数などのプラス寄与が大きく、在庫調整の進捗が示された。表面上の数字はマイナスだが内容は良好で、実質的には1月のC I先行指数は改善と見てよいだろう。

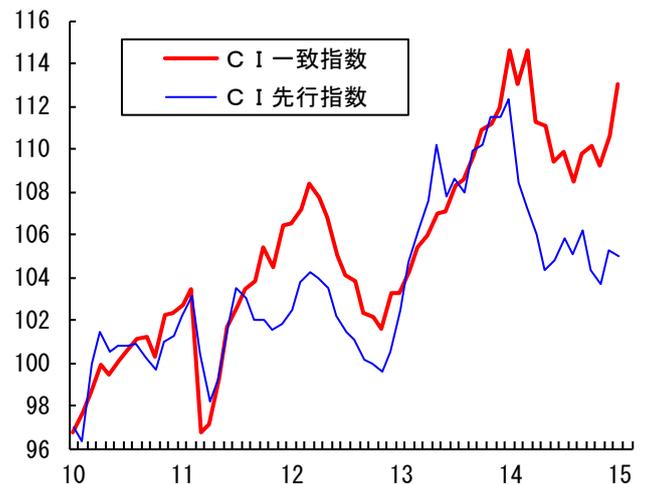
○ 基調判断は、但し書きが削除され、単なる「改善」に

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、14年11月までの「下方への局面変化」から、12月には「改善」へと上方修正されていた。15年1月も、この「改善」判断が維持された。内閣府による「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」であり、景気が既に底打ちし、足元では景気回復局面に転じていることが強く示唆されている。

なお、14年12月の基調判断では、「改善」の後に「ただし、基調判断に用いている3か月後方移動平均のこのところの変化幅は、大きいものではない」という但し書きがついていたが、15年1月のC I一致指数の上昇幅が大きかったことで、但し書きが今回削除され、単なる「改善」という判断に変わった。ただ、内閣府によると、「改善」という評価自体は変わっていないため、基調判断の取り扱いとしては、今回の判断は前月から現状維持になるとのことである。

(2010年=100)

C Iの推移



(出所)内閣府「景気動向指数」